

鳥取県東部農業の概要



(鳥取市青谷町：新技術の梨ジョイント栽培)

平成26年7月
鳥取県東部農林事務所

I	東部地区（鳥取市、岩美町）農業の概要	1
1	現状と課題	1
	（1）農地の状況	
	（2）担い手の状況	
	（3）農業生産の状況	
2	今後の方向	2
II	農地	3
1	土地利用の状況	3
2	耕地面積	3
3	農業基盤の整備状況	4
4	荒廃農地の状況	4
III	農家・農業者の状況	5
1	農家戸数	5
2	農業者数	5
3	農業者年齢	6
4	認定農業者数	7
5	新規就農者数	7
6	集落営農組織数	8
IV	主な農畜産物の生産、販売状況	9
1	水稲	9
2	らっきょう	10
3	白ねぎ	11
4	アスパラガス	12
5	梨	13
6	柿	14
7	乳用牛	15
8	肉用牛	16
9	豚	17
10	鶏	18
V	がんばる農家、がんばる地域プラン支援事業 認定プランの概要	19
1	がんばる農家プラン支援事業 認定プラン	19
2	がんばる地域プラン支援事業 認定プラン	20
VI	日本型直接支払いの取り組み概要	21
1	農地水保全管理支払交付金（共同活動支援）	21
2	中山間地域等直接支払交付金	21
3	活動事例	22
VII	生産組織等の活動事例	25

I 東部地区(鳥取市、岩美町)農業の概要

東部地区は、鳥取市と岩美町の1市1町をエリアとしている。

鳥取市は、平成16年に1市6町2村(旧鳥取市、国府町、河原町、用瀬町、佐治村、気高町、鹿野町、青谷町、福部村)が合併し、広域エリアを管轄している。県内最大の人口19万3千人(H26年5月現在)を有し、鳥取砂丘や湖山池など美しい自然に恵まれている。

岩美町は、人口1万2千人(H26年5月)。山陰海岸国立公園の絶景地を有し、農業、漁業を中心とした自然豊かな町である。

なお、東部の南部にある八頭町、若桜町、智頭町は、東部農林事務所八頭事務所が対応している。

1 現状と課題

- ・東部地区は水田が多く、コシヒカリ、きぬむすめといった良食味米の生産とともに、飼料用稲(WCS)や飼料用米(日本晴)の生産も盛ん。
- ・果樹は、傾斜地において二十世紀梨を中心に栽培されていたが、販売価格の低迷などから減少。近年、新品種で価格の高い新甘泉や柿の輝太郎が増加。
- ・砂丘畑では、らっきょうが有名で、全国第2位の生産量。
- ・水田転作作物として、白ねぎが定着しており、さらに中山間地域の特産物としてアスパラガスを推進。

(1)農地の状況

○耕地面積は、年々減少しているが、荒廃農地は、近年横ばいあるいは減少傾向にある。これは、近年荒廃農地の解消を図る施策が充実したことにより、農地としての再生利用が進みつつあるものと考ええる。

耕地面積 8,008ha (H22年) ⇒ 7,954ha (H25年) △ 54ha
荒廃農地面積 217ha (H22年) ⇒ 166ha (H25年) 76%

(2)担い手・新規就農者の状況

○農業就業人口は減少が続き、また高齢化が進むなど、農業労働力は脆弱化。

農業就業人口 41,071人 (H17年) ⇒ 33,433人 (H22年) 81%
平均年齢 65.5歳 (H17年) ⇒ 68.3歳 (H22年) 2.8歳上昇

○また、認定農業者はH20年をピークに近年減少しているが、地域農業をになう集落営農組織は微増。認定農業者の減少は、高齢化等の理由で再認定を受ける者が減少したものと考ええる。

認定農業者数 154 (H17年) ⇒ 171 (H20年) ⇒ 133 (H25年)
集落営農組織数 68 (H17年) ⇒ 74 (H25年)
うち法人数 6 (H17年) ⇒ 18社 (H25年)

○新規就農者は、近年大きく増加。これは、とっとりふるさと就農舎やアグリスタート研修、農の雇用や国・県の給付金事業など、各種支援策の充実に加え、これら業務に携わる各機関の尽力によるところが大きい。

新規就農者数 2人 (H18年) ⇒ 20人 (H25年)
うち法人等への就職 14人

* H18は農業法人等へ就職した者を含まず

(3) 農業生産の状況

○東部地区を代表する特産物のらっきょうは、生産者数は減少しているものの、栽培面積、出荷量、販売額は横ばいとなっている。なお、栽培の歴史は古く、平成 26 年は、本格的な栽培開始から 100 周年を迎えた。

生産者数	107 戸 (H17)	⇒	79 戸 (H25)
栽培面積	119ha (H17)	⇒	114ha (H25)
出荷量	1,141t (H17)	⇒	1,538t (H25)
販売額	650 百万円 (H17)	⇒	733 百万円 (H25)

○水田転作作物として導入された白ねぎは、生産者数、栽培面積とも増加し、年次変動があるものの出荷量、販売額も増加。

生産者数	113 戸 (H18)	⇒	200 戸 (H25)
栽培面積	18ha (H18)	⇒	24ha (H25)
出荷量	278t (H18)	⇒	324t (H25)
販売額	82 百万円 (H18)	⇒	122 百万円 (H25)

○梨については、高齢化や販売単価の低迷などがあり、生産者数、栽培面積、出荷量、販売額ともに減少。

生産者数	360 戸 (H20)	⇒	260 戸 (H25)
栽培面積	147ha (H20)	⇒	97ha (H25)
出荷量	2,558t (H20)	⇒	1,583t (H25)
販売額	659 百万円 (H20)	⇒	483 百万円 (H25)

○畜産については、酪農、肉用牛ともに生産戸数、飼養頭数ともに減少しているが、鳥取地どりの生産が伸びていることから、肉用鶏は飼養羽数が増加。

2 今後の方向

(1) 新規就農者、担い手育成

○農家の高齢化や販売単価の低迷などにより、東部地区の農業者は減少を続けているが、一方で、とっとりふるさと就農舎やアグリスタート研修など新規就農者に対する支援施策の充実により、次世代を担う農業者は徐々にではあるが増えていることから、今後とも新規就農者への支援に努めていく。

○東部は水田地域であり、水田農業を維持していくため、担い手への土地利用集積を促進するとともに、大規模経営体や集落営農組織の育成を図る。

(2) 水田農業の複合経営推進

○水田農業の複合経営を推進し、所得の安定化を図るため、次の 2 品目を重点的に推進していく。

〔白ねぎ〕

・らっきょうに次ぐ特産物として、H25 年度に JA 鳥取いなばが「いなば白ねぎ 倍増プラン」を策定したところであり、品質が良く安定的に収入が期待できる白ねぎの振興を図る。

〔アスパラガス〕

・白ねぎに加え、中山間地域の特産物として市場からの需要も強いアスパラガスについて、普及所、JA などが中心となって実証ほ設置や安定多収の栽培マニュアルを作成するなどにより、生産拡大を図る。

(3) 果樹、畜産

○梨については、販売単価が高い新品種の新甘泉、秋甘泉の生産拡大を図るため、栽培管理のしやすいジョイント栽培などの新技術を推進する。また、柿の新品種である輝太郎も、販売単価が高いことから、生産拡大を図る。

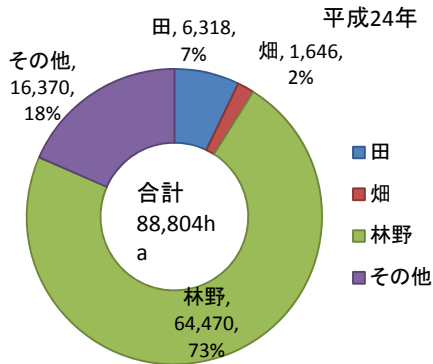
○鳥取地どりは、高品質で需要が高く、H25 年度に専用の食鳥処理施設を整備したところでもあり、生産振興に努める。

II 農地

1 土地利用の状況

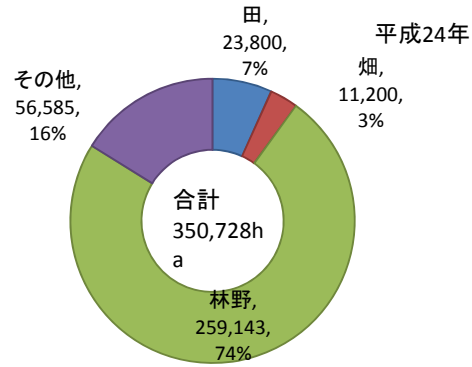
田、畑率は9%と、県全体の10%とほぼ同等である。また、林野率は73%と、県全体の74%とほぼ同等である。

土地利用状況(県東部)



県東部: 鳥取市、岩美町の計

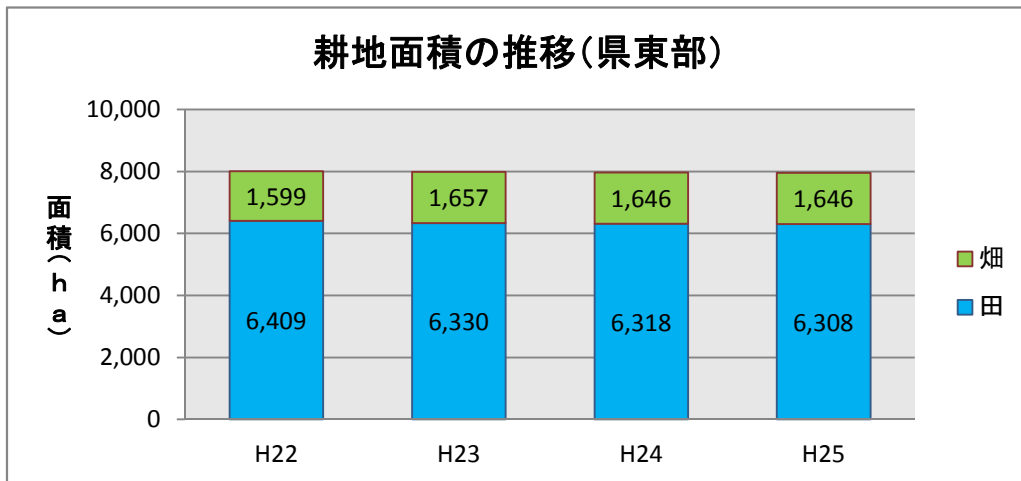
土地利用状況(鳥取県)



田・畑…農林水産省統計部「耕地面積調査」
林野・その他・計…平成25年度鳥取県林業統計

2 耕地面積

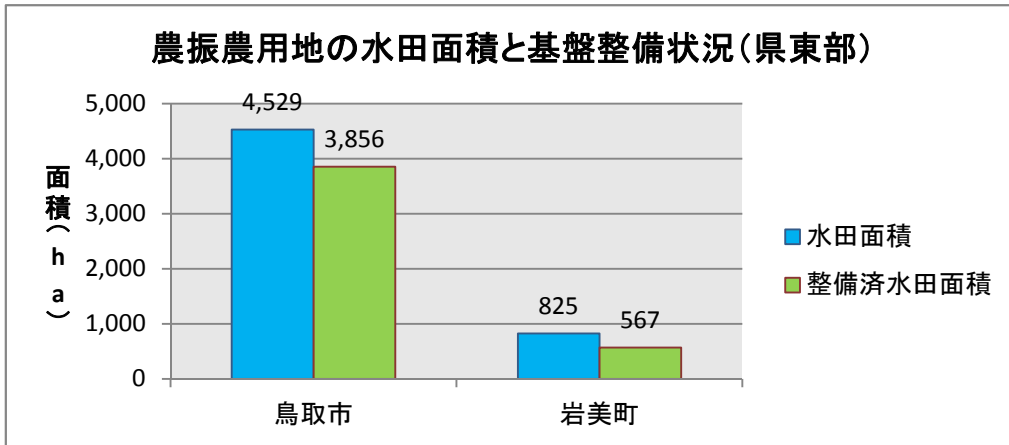
県東部の耕地面積（水田+畑 畦畔含む）は、約8,000haで県全体の23%を占める。



田・畑…農林水産省統計部「耕地面積調査」

3 農業基盤の整備状況

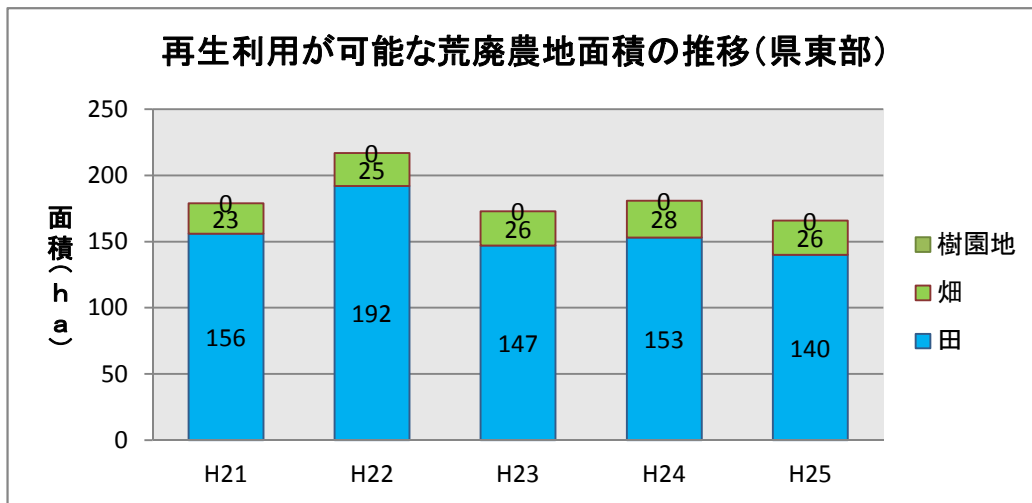
県東部の水田整備率は、鳥取市85%、岩美町69%である（鳥取県平均84%）。



平成25年度までの整備済面積(見込)
鳥取県農地・水保全課調べ

4 荒廃農地の状況

荒廃農地面積は近年横ばいあるいは減少傾向にあり、平成25年度時点で166haとなっている。内訳は、水田が140haと84%を占め、残りは畑の26ha（14%）となっている。

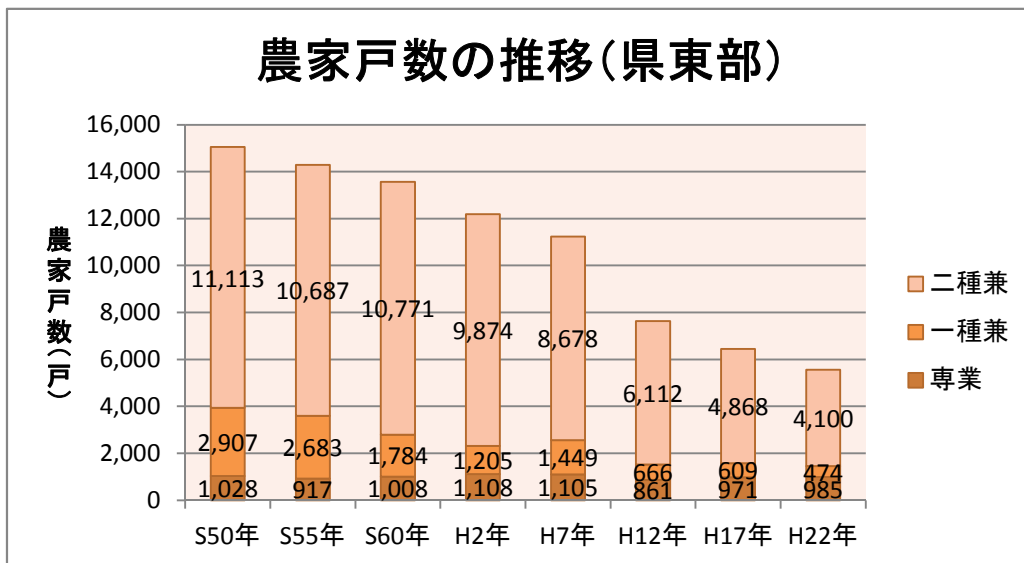


荒廃農地の発生・解消状況に関する調査(農林水産省)

Ⅲ 農家・農業者の状況

1 農家戸数

県東部の農家戸数は年々減少しているが、専業農家戸数は近年回復傾向にある。



世界農林業センサス(農業センサス)、鳥取農林水産統計年報

注1) 専業農家: 世帯員のうちに、自営農業以外の兼業従事者が一人もいない農家をいう。

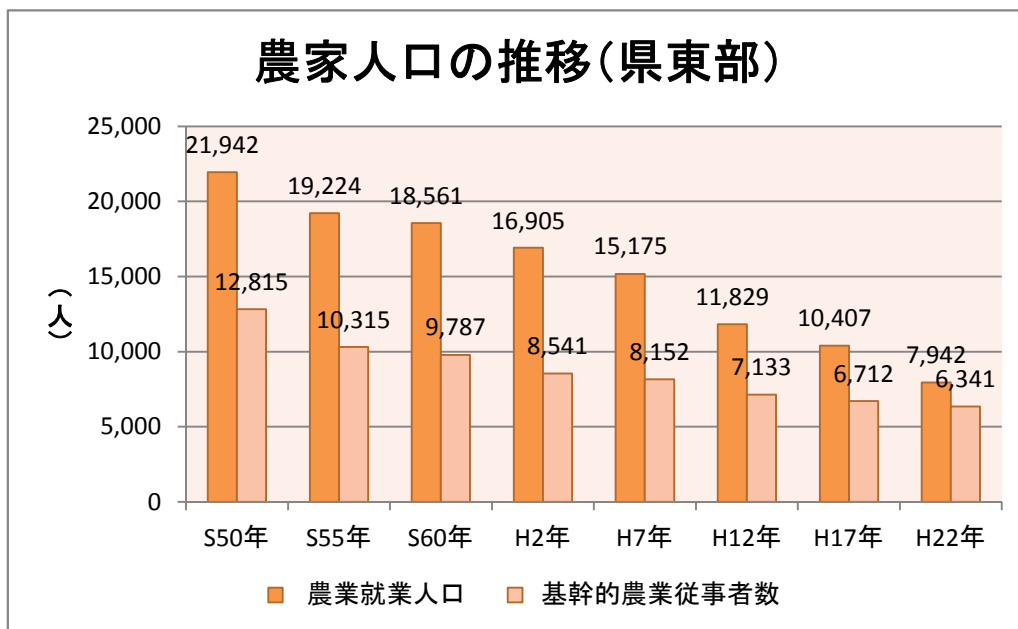
第1種兼業農家: 農業と兼業とを比べて、農業所得を主としている兼業農家をいう。

第2種兼業農家: 農業と兼業とを比べて、農業所得を従としている兼業農家をいう。

2 農業者数

農業就業人口は減少を続けており、平成22年は平成17年と比較して24%減少している。

農業就業人口のうち、基幹的農業従事者数は減少率が比較的ゆるやかであり、平成22年は平成17年と比較して5.5%の減少にとどまっている。



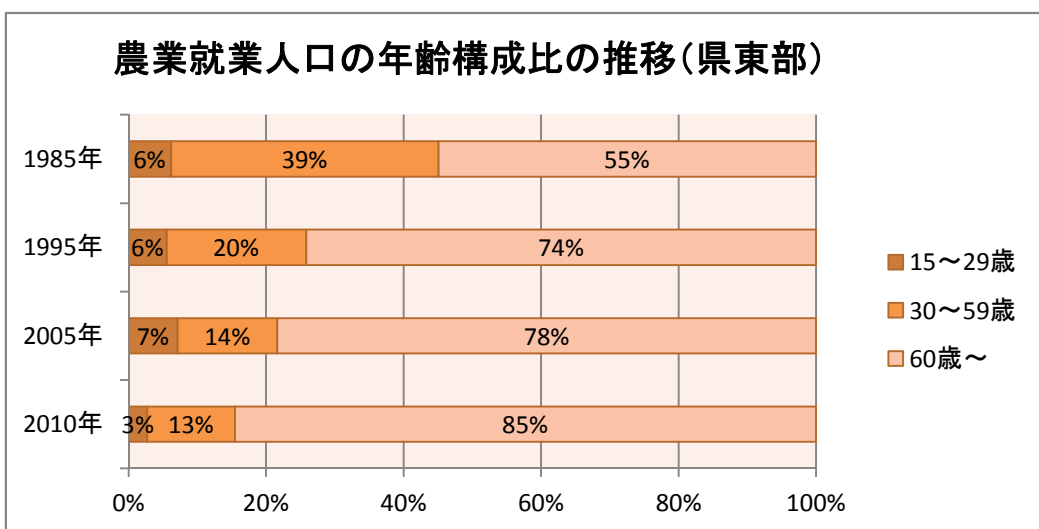
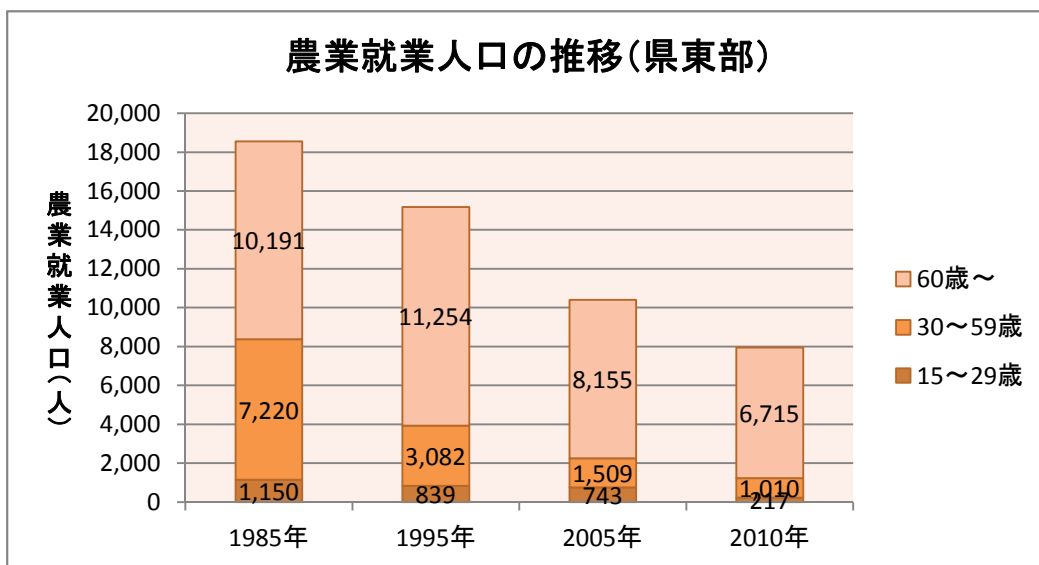
世界農林業センサス(農業センサス)、鳥取農林水産統計年報

注1) 農業就業人口: 「農業のみに従事した世帯員」及び「農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多い世帯員」のことをいう(15才以上)。

注2) 農業就業人口のうち、普段の主な状態が「仕事に従事していた者」のことをいう。

3 農業者年齢

農業就業人口の年齢構成は、1985(昭和60)年では、15～59歳が45%を占めていたが、2010(平成22)年では、15～59歳が16%、60歳以上が84%を占めている。

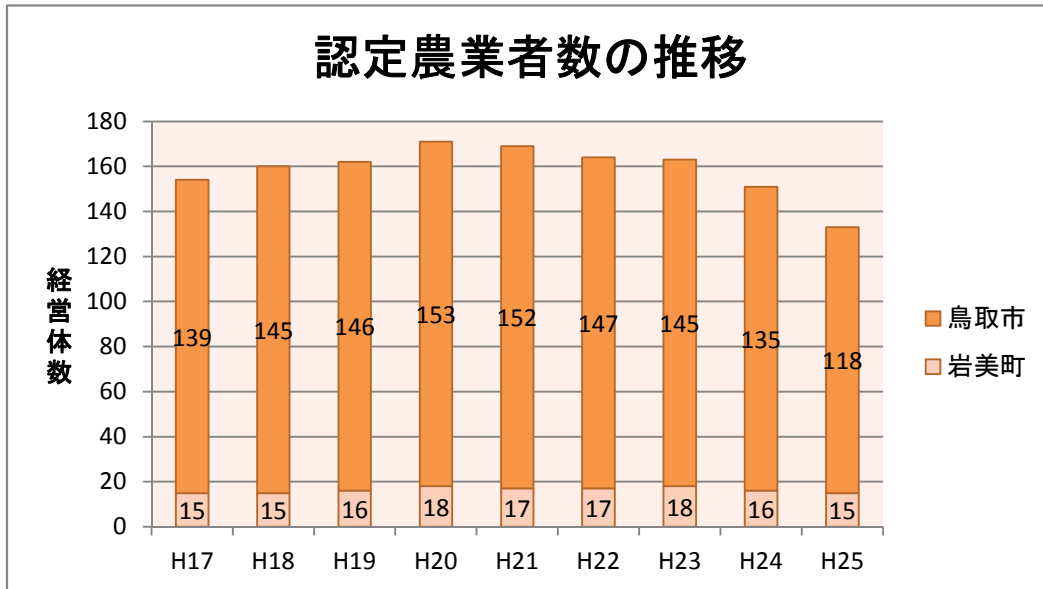


4 認定農業者数

県東部の認定農業者数は平成20年度の171経営体をピークに平成25年度は133件へ減少した。

認定農業者減少の主な要因は、新規認定農業者数を、計画を更新しなかった農業者数が上回るためである。

法人の認定農業者数は増加傾向が続いており、平成17年度の18経営体から平成25年度の40経営体へと22経営体増加した。

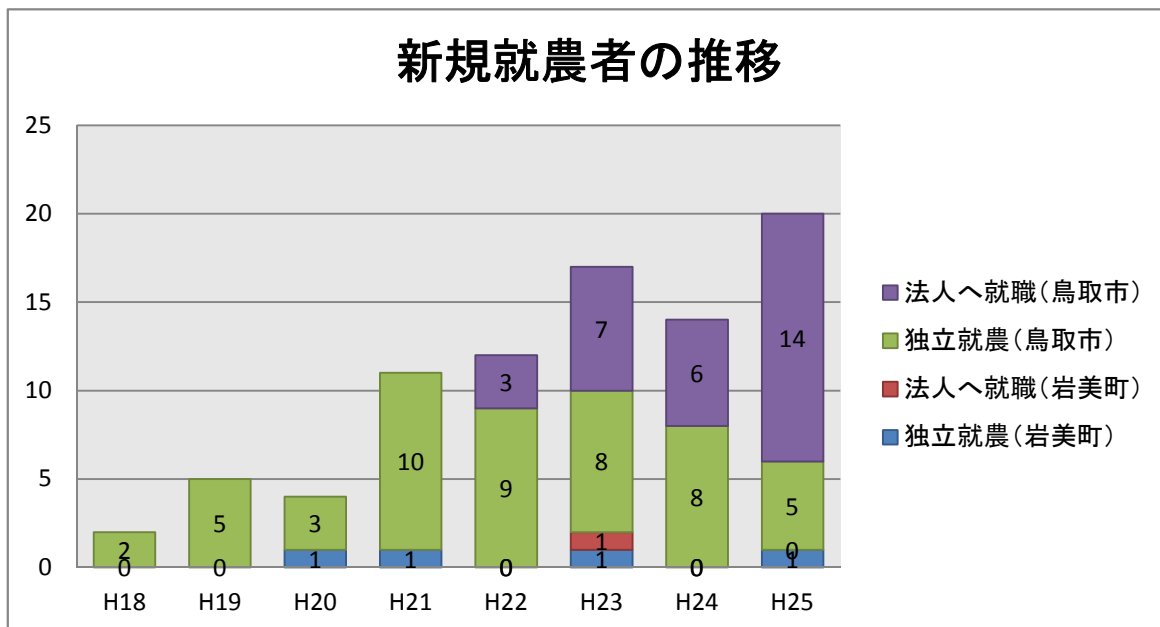


* 鳥取市、岩美町調べ

5 新規就農者数

平成21年度以降、全県的に農の雇用事業の活用等により、新規就農者が増加している。

平成25年度の新規就農者数は20名（うち、鳥取市が19名、岩美町が1名）となっている。

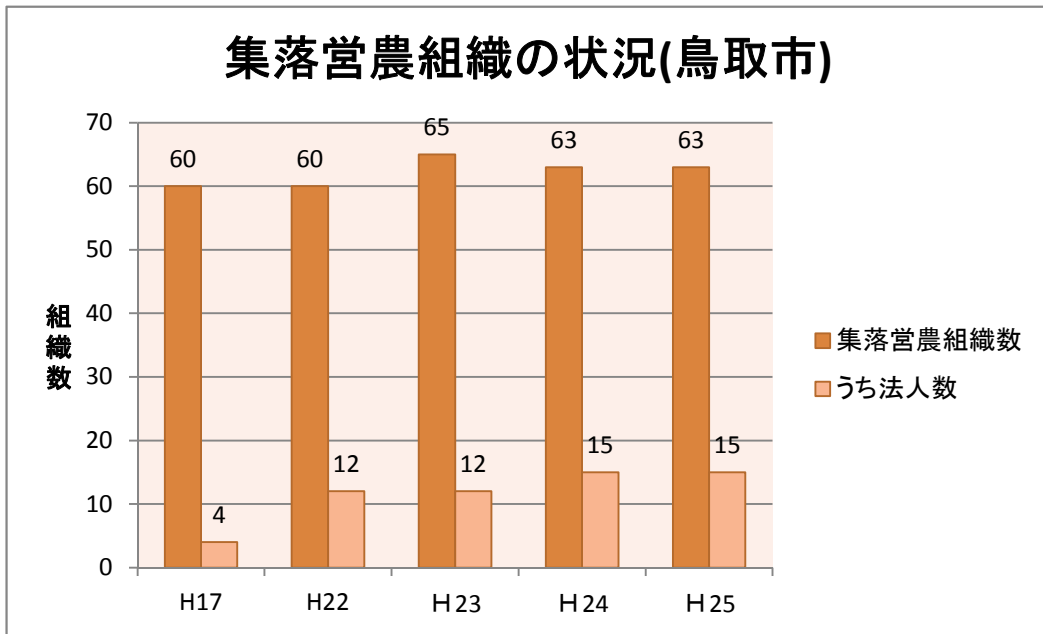


* 鳥取県経営支援課調べ

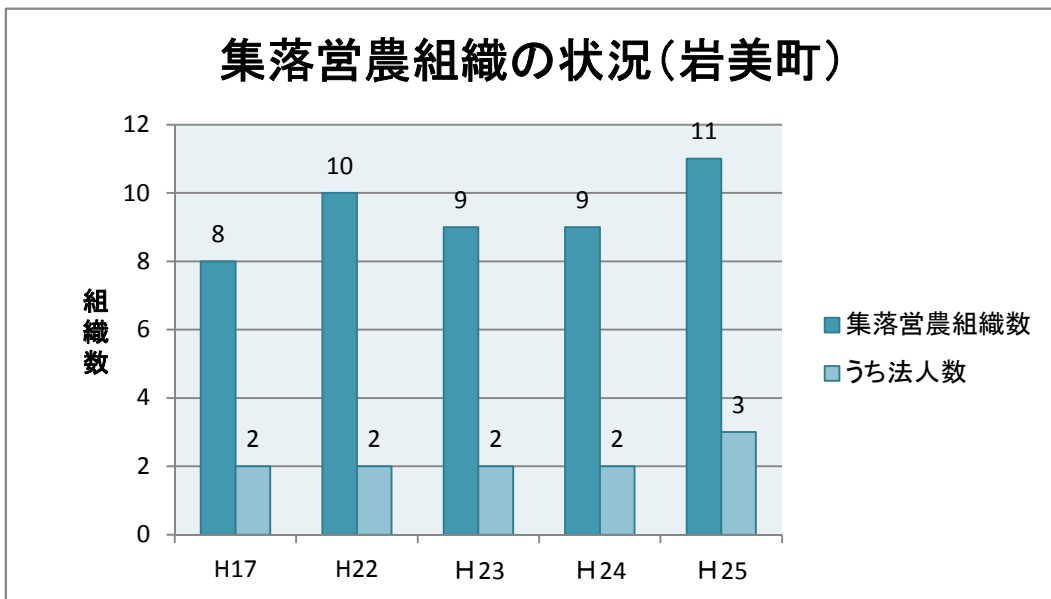
* 法人への就職者数は平成21年度以前は調査データ無し。

6 集落営農組織数

県東部の集落営農組織数は近年横ばい傾向にあり、集落営農組織のうち法人数については、微増傾向にある。



参考数値：農業集落数(鳥取市) H17(1995)年：401、H22(2000)年：394



参考数値：農業集落数(岩美町) H17(1995)年：47、H22(2000)年：48

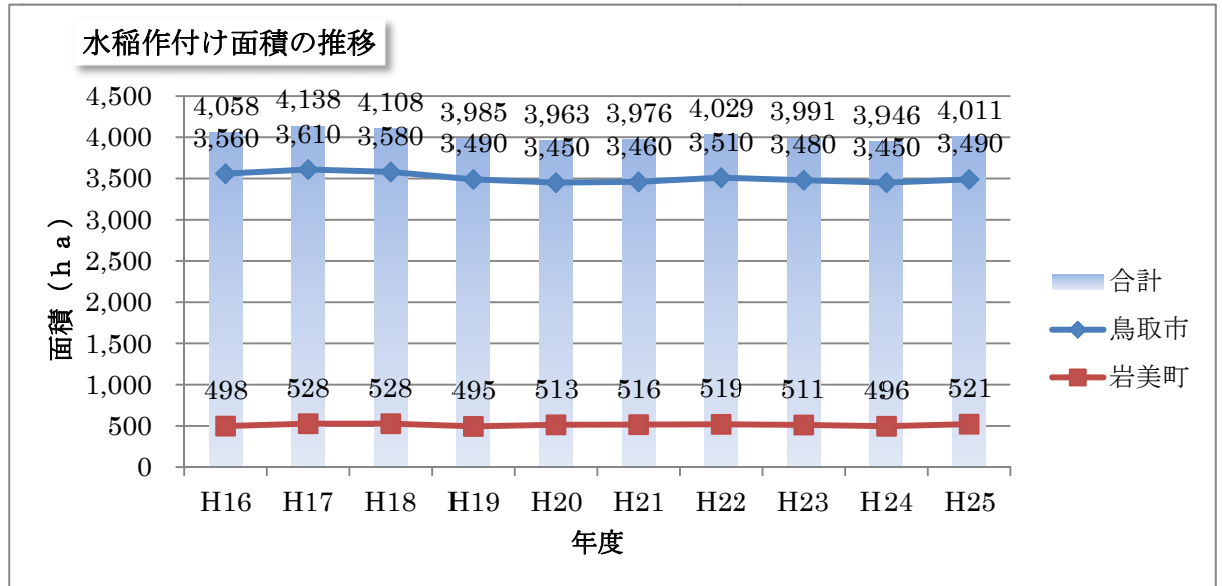
農業集落数：世界農林業センサス数値
 集落営農組織数、うち法人数：集落営農実態調査数値(農林水産省)

IV 主な農畜産物の生産、販売状況（※数字は特段の記載が無い場合は JA 鳥取いなば調べ）

1 水稲

(1) 作付面積

作付面積は横ばい傾向で、管内全体では約 4 千ヘクタール前後で推移している。

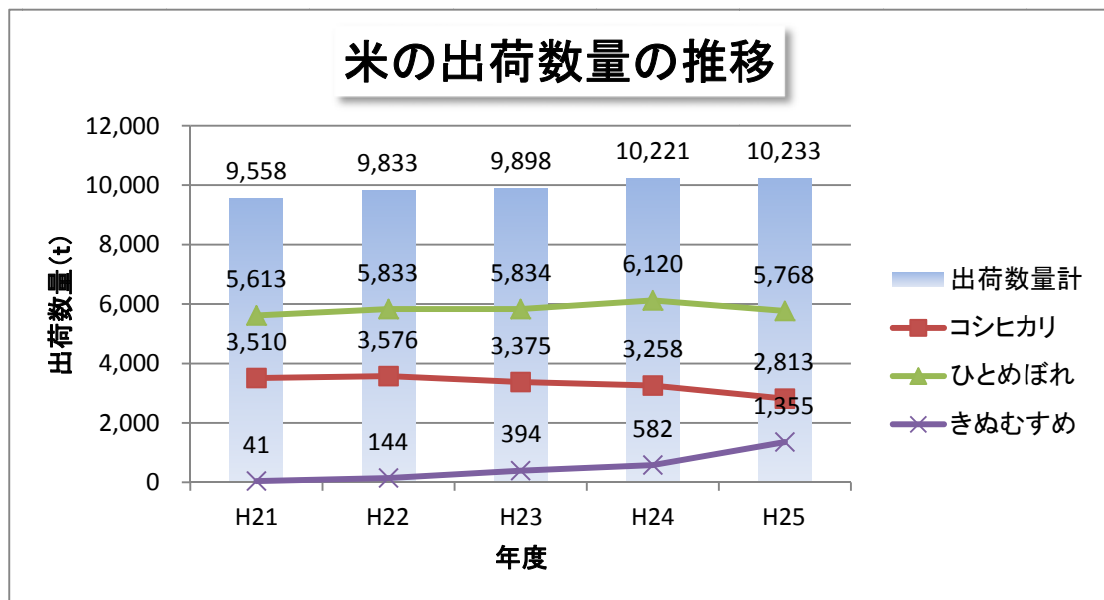


(鳥取農林水産統計年報調べ)

(2) 出荷数量

①平成 25 年度の出荷量は約 1 万トンで、ここ数年微増傾向にある。

②夏の高温で収量、品質が低下しているコシヒカリからきぬむすめへの品種転換が進んできている。



(3) トピックス

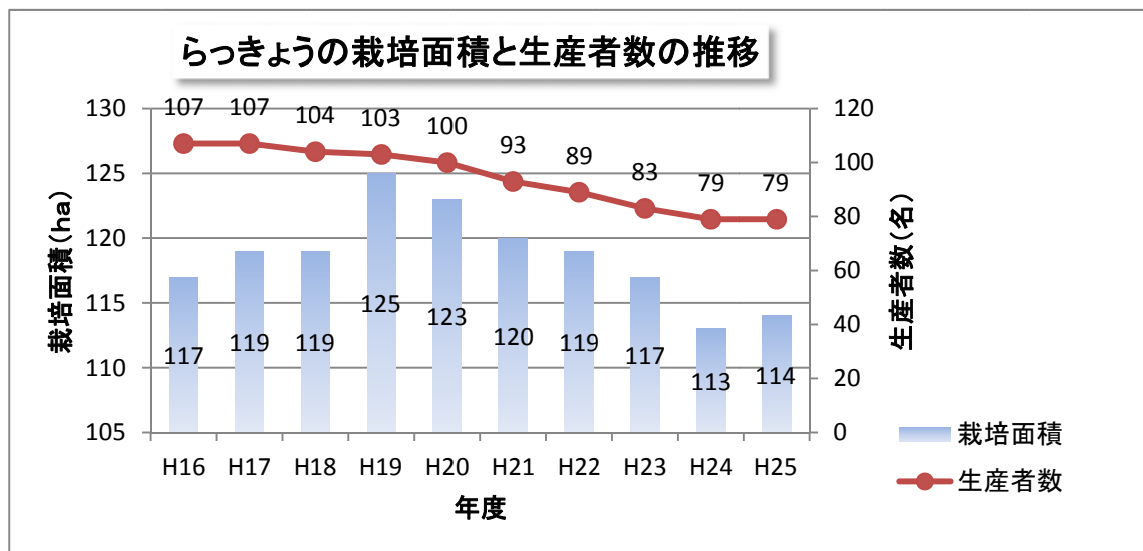
①夏場の高温によりコシヒカリの品質低下が課題となっていることから、夏の高温に強く、収量、品質が安定しているきぬむすめに品種転換する農家が増加している。

②鳥取県産のきぬむすめは日本穀物検定協会の食味ランキング（平成 25 年産）で特 A ランクを取得した。

2 らっきょう

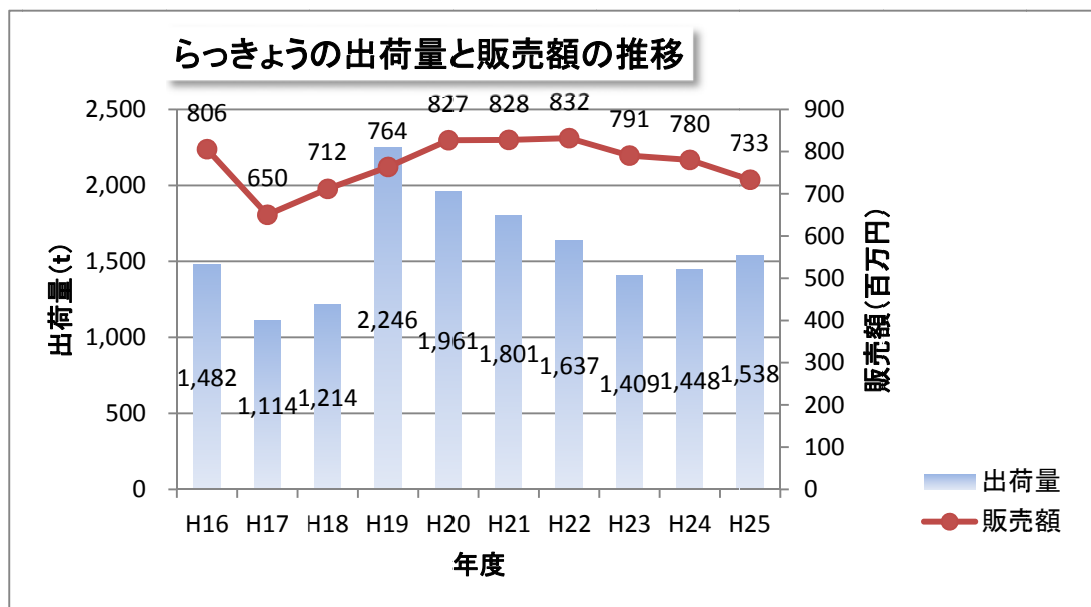
(1) 栽培面積・生産者数

- ①鳥取市福部町で栽培されている「砂丘らっきょう」は、鳥取県内の栽培面積の約6割を占めている。
- ②生産者数は高齢化に伴い、ここ10年で27パーセント減少し、平成25年度は79戸となっている。栽培面積は平成19年に微増したものの、平成25年度は10年前とほぼ同様の114ヘクタールとなっている。



(2) 出荷量・販売金額

- ①出荷量は平成19年度の大豊作を除き、ここ5年は1,400～2,000トンの範囲で推移している。販売額は平成20年度以降減少傾向にある。



(3) トピックス

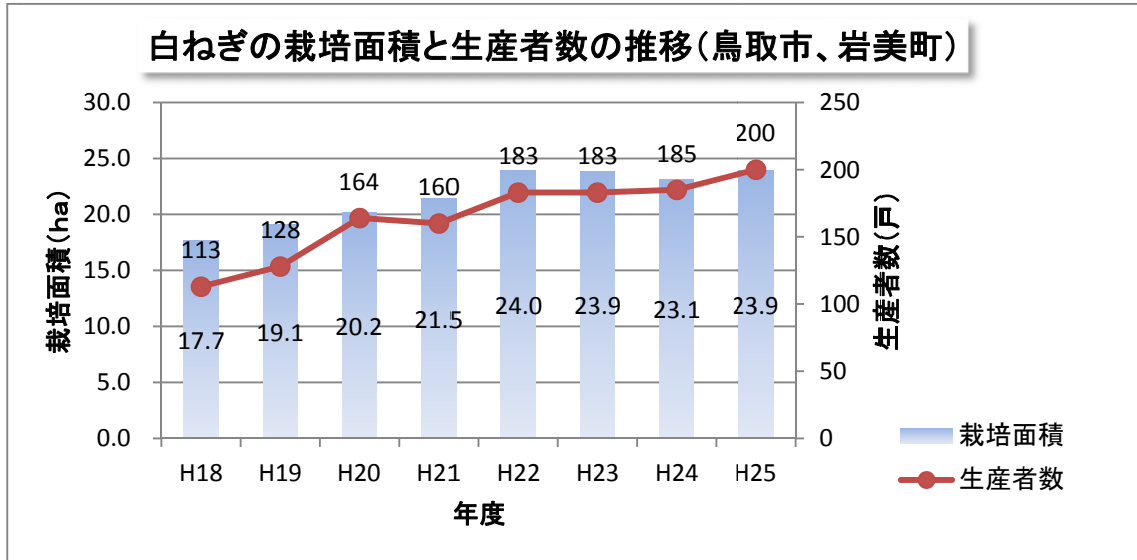
- ①平成26年度は本格的な栽培開始から100周年を迎え、新商品開発、記念誌の発行等100周年を記念した取組を実施。
- ②鳥取県はらっきょう収穫量が鹿児島県に次ぐ全国第2位を誇る。(農林水産省、平成22年地域特産野菜生産状況調査)

3 白ねぎ

(1) 栽培面積・生産者数

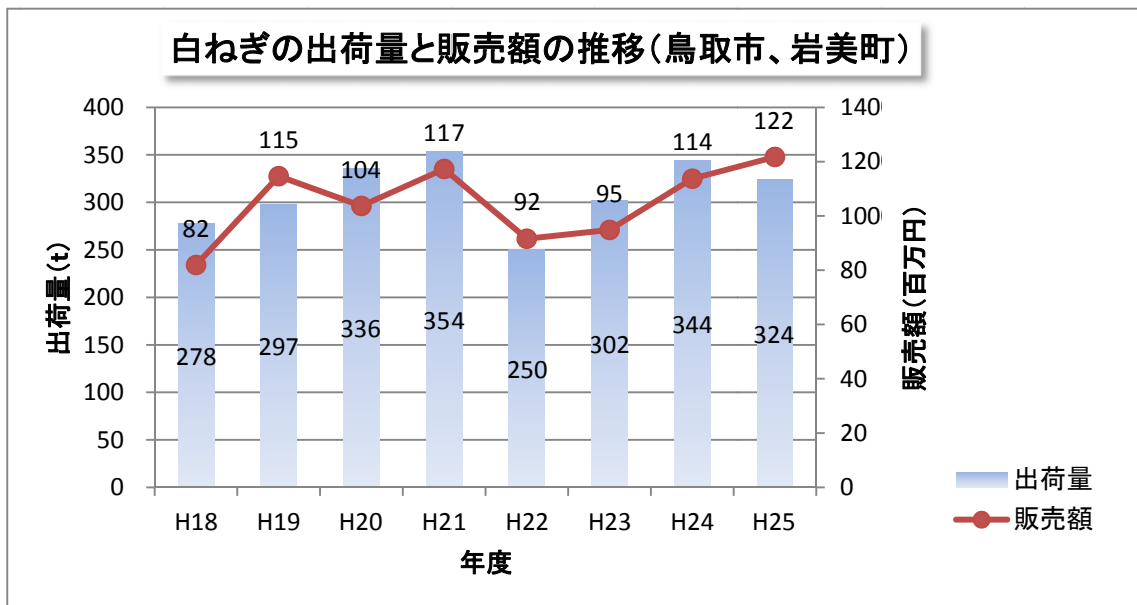
①生産者数は平成 18 年対比で約 1.8 倍となっている。栽培面積も水田転換を中心に増加し、平成 18 年度対比で約 1.4 倍となっている。

※平成 21～25 年度、JA 鳥取いなばがチャレンジプラン支援事業を活用し管理機、皮剥機等機械のリースを実施



(2) 出荷量・販売金額

①出荷量は年次変動があるものの平成 18 年度対比で約 2 割増加、販売額も約 5 割増加している。(平成 22 年度は雪害により減収)



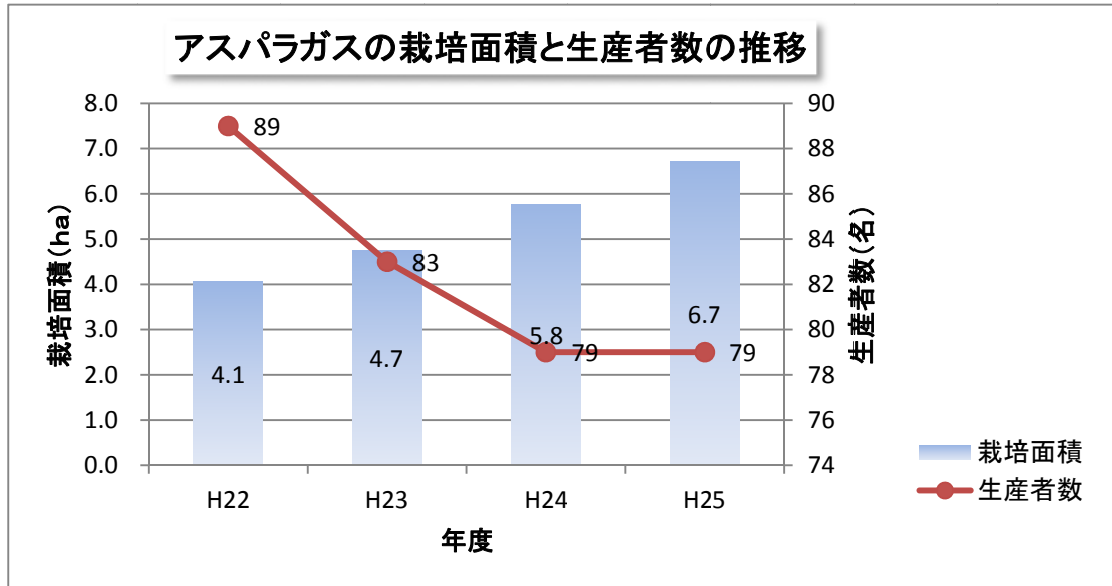
(3) トピックス

①JA 鳥取いなばが地域プラン事業を活用して関係機関と協力しながら「白ねぎ倍増プラン」を平成 25 年度に策定、平成 30 年度には現在の面積(八頭管内含む)約 40 ヘクタールを倍の 80 ヘクタールへ増加することとしている。

4 アスパラガス

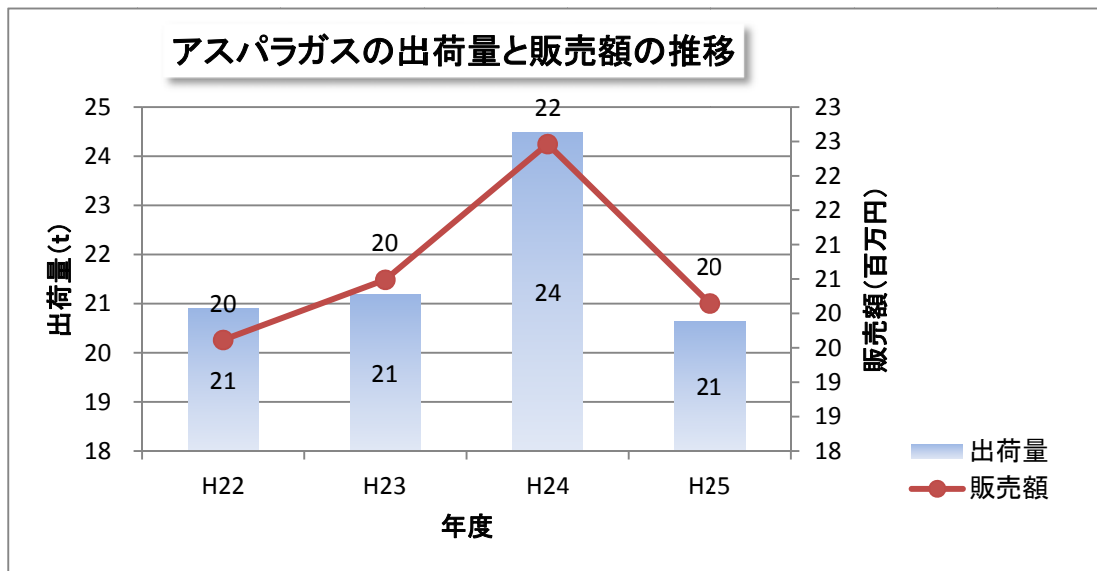
(1) 栽培面積・生産者数（八頭管内含む）

①栽培面積は平成25年度で6.7ヘクタール、ここ数年は毎年約1ヘクタール増加している。一方、栽培者数は減少傾向にある。



(2) 出荷量・販売金額（八頭管内含む）

②ここ4年間では、出荷量は20トン、販売額2千万円前後で推移している。



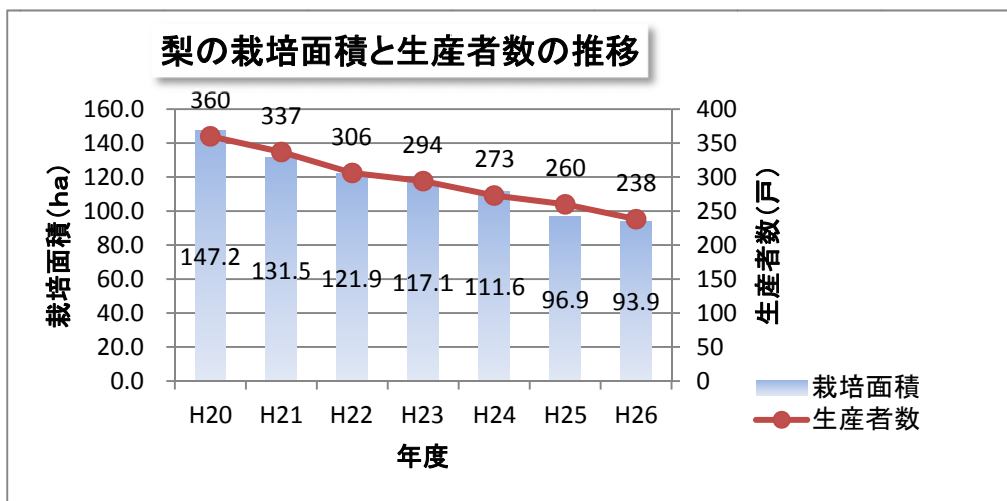
(3) トピックス

①毎年約1ヘクタール面積が増加、らっきょう、白ねぎに次ぐ特産品として育成するため、平成26年度より関係機関でプロジェクトチームを設置し、一丸となって推進していくこととしている。

5 梨

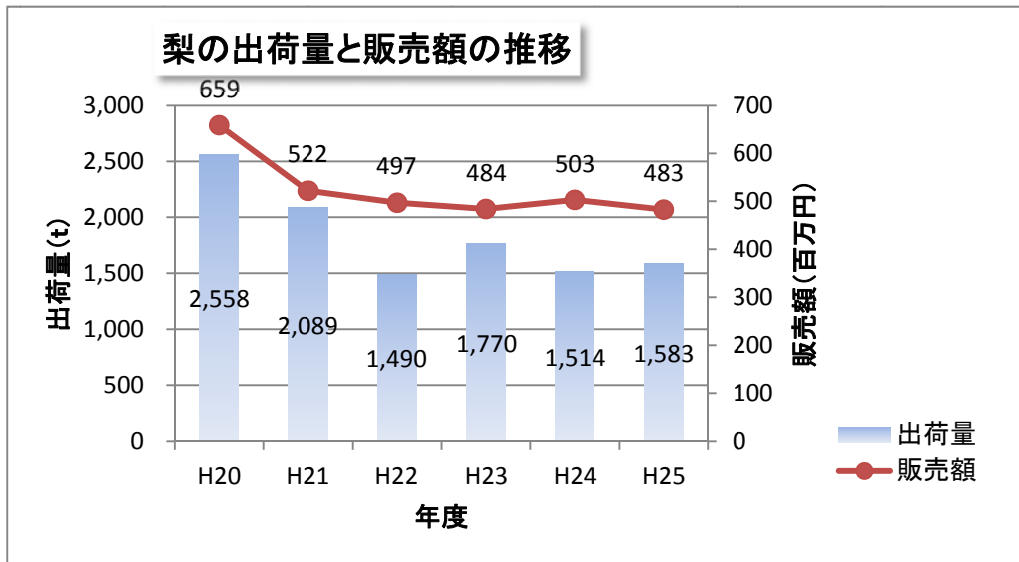
(1) 栽培面積・生産者数

①平成26年度の栽培戸数は238戸、高齢化や販売単価の低迷等もあり、ここ5年間で約100戸減少している。それに伴い5年間で栽培面積も約3割減少した。



(2) 出荷量・販売金額

①ここ5年間の出荷量は1,500トン前後、販売額は5億円前後で推移している。栽培戸数、面積は全体的に減少しているものの収量、販売価格が高い新品種への転換が進んでいることから横ばいとなっている。



(3) トピックス

①現在、二十世紀梨が主流であるが、新甘泉を中心に新品種の導入が進んでいる。

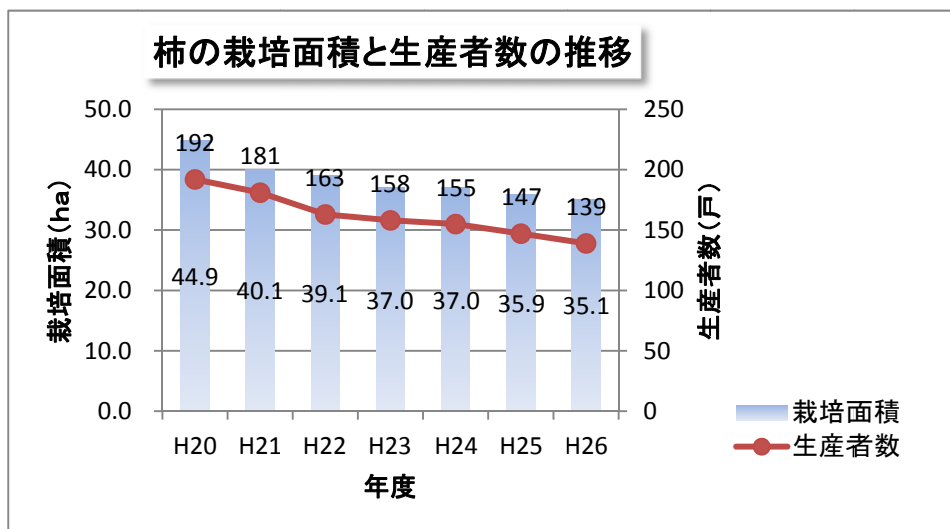
	H18～H22	H23	H24	H25	合計
新品種苗木本数	536	1,002	1,041	3,862	9,681
うち新甘泉	306	645	527	2,393	5,474

※JA鳥取いなばが管内農家へ配布した本数

6 柿

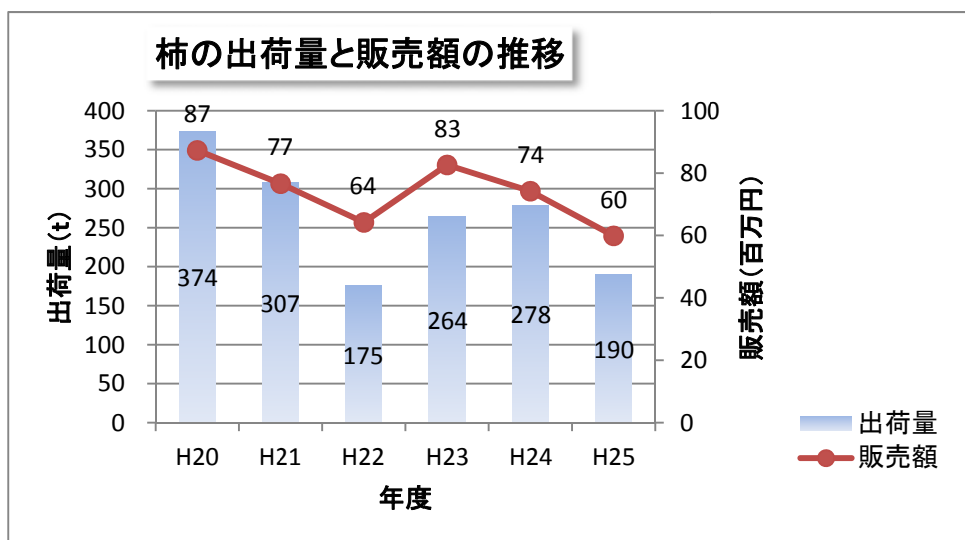
(1) 栽培面積・生産者数

- ①梨同様、生産者の高齢化等により、生産者数、栽培面積ともに減少傾向にある。
- ②平成 26 年度の生産者数は 139 戸、栽培面積は 35 ヘクタールで、ここ 5 年間で生産者数で 25 パーセント、栽培面積で 13 パーセント減少している。



(2) 出荷量・販売金額

- ①平成 26 年度の出荷量は 60 トン、販売額 1 億 9 千万円である。
- ②平成 22、25 年度は霜害により出荷量、販売額とも減少した。



(3) トピックス

- ①現在、富有、西条柿が中心であるが、収量、品質、販売単価の高い新品種「輝太郎」の植栽が進んでいる。

	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	合計
輝太郎苗木本数 (本)	264	937	387	277	712	2,577

※JA 鳥取いなばが管内農家へ配布した本数

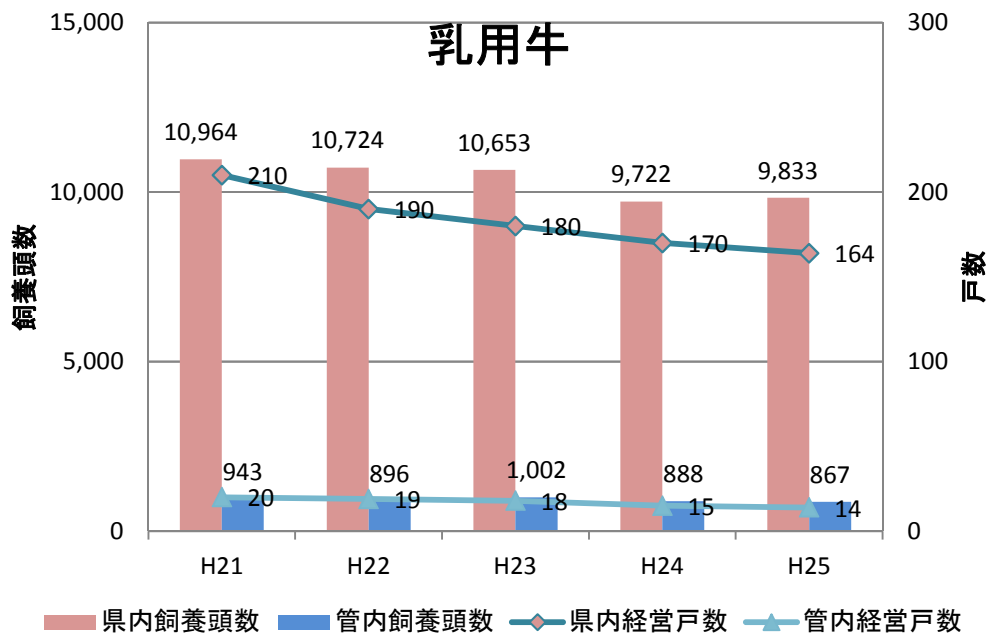
7 乳用牛

酪農経営においては、管内では全県の10%弱を占め、小規模農家の廃業があり、昨年から1戸減少

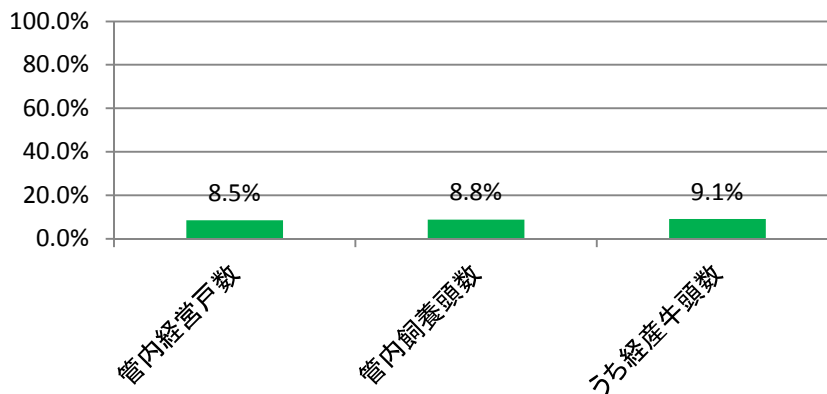
(単位:戸・頭・羽、%)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	前年比	県内占有率
管内経営戸数	20	19	18	15	14	93.3%	8.5%
管内飼養頭数	943	896	1,002	888	867	97.6%	8.8%
うち経産牛頭数	687	693	627	610	602	98.7%	9.1%
県内経営戸数	210	190	180	170	164	96.5%	
県内飼養頭数	10,964	10,724	10,653	9,722	9,833	101.1%	
うち経産牛頭数	7,139	6,911	6,658	6,679	6,623	99.2%	

資料:県畜産課調べ
※管内は鳥取市及び岩美町



県内占有率(H25乳用牛)



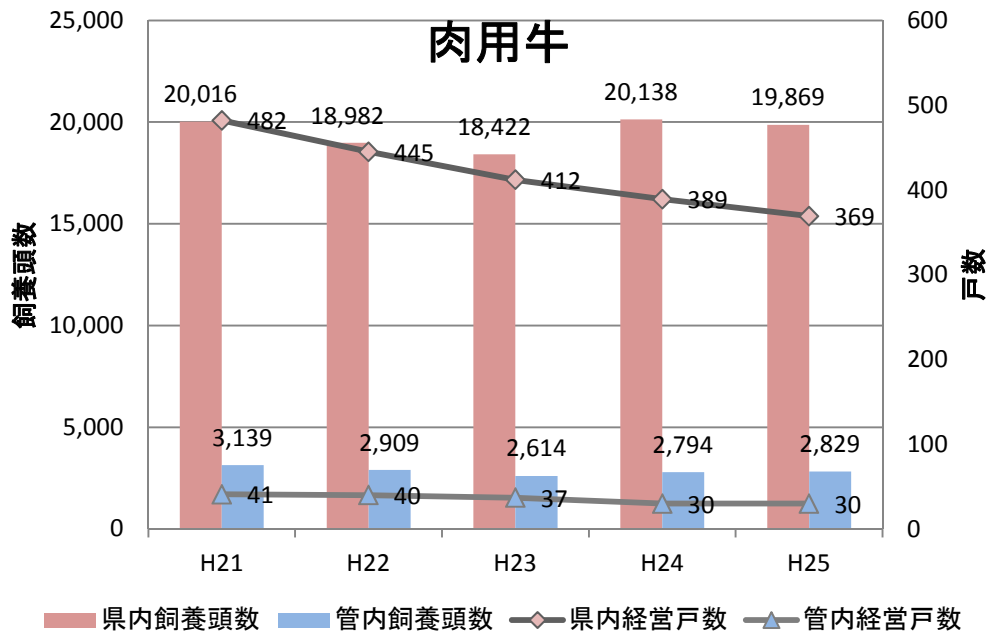
8 肉用牛

繁殖経営は全県で10戸減少し274戸、飼養頭数はやや減少し3,163頭。管内では横ばいで14
 一貫経営は全県で5戸減少し39戸、飼養頭数はやや増加し5,057頭。管内は1戸減少し7戸。
 肥育経営は全県で5戸減少し54戸、飼養頭数も減少し11,217頭。管内では1戸増加し9戸。

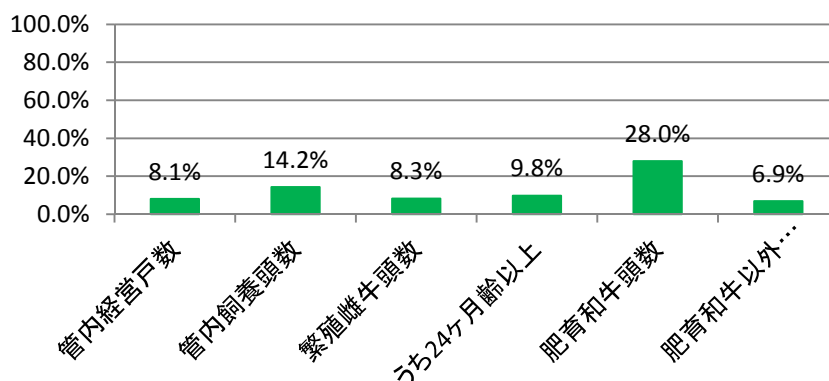
(単位:戸、頭・羽、%)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	前年比	県内占有率
管内経営戸数	41	40	37	30	30	100.0%	8.1%
管内飼養頭数	3,139	2,909	2,614	2,794	2,829	101.3%	14.2%
繁殖雌牛頭数	393	365	373	344	353	102.6%	8.3%
うち24ヶ月齢以上	358	323	314	241	250	103.7%	9.8%
肥育和牛頭数	1,881	1,697	1,694	1,781	1,854	104.1%	28.0%
肥育和牛以外頭数	861	737	550	669	622	93.0%	6.9%
県内経営戸数	482	445	412	389	369	94.9%	
県内飼養頭数	20,016	18,982	18,422	20,138	19,869	98.7%	
繁殖雌牛頭数	3,265	3,160	3,141	4,156	4,246	102.2%	
うち24ヶ月齢以上	2,904	2,728	2,827	2,585	2,559	99.0%	
肥育和牛頭数	7,727	6,969	7,295	6,639	6,626	99.8%	
肥育和牛以外頭数	9,024	8,743	7,986	9,343	8,997	96.3%	

資料:県畜産課調べ
 ※管内は鳥取市及び岩美町



県内占有率(H25肉用牛)



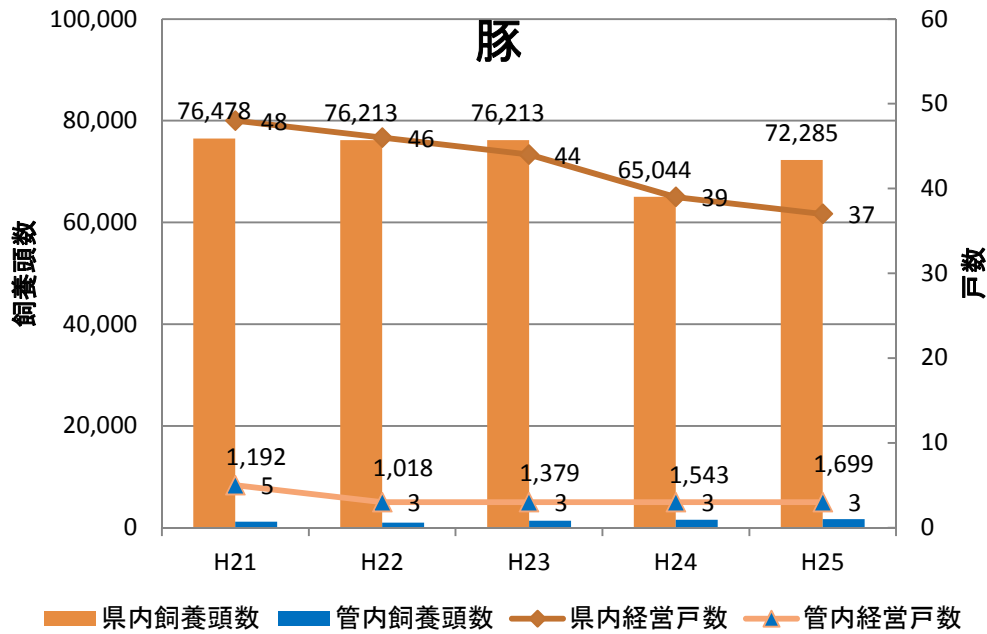
9 豚

全県では経営戸数は2戸減少したが、飼養頭数は増加。一方、管内戸数は横ばいで、飼育頭数は増加。

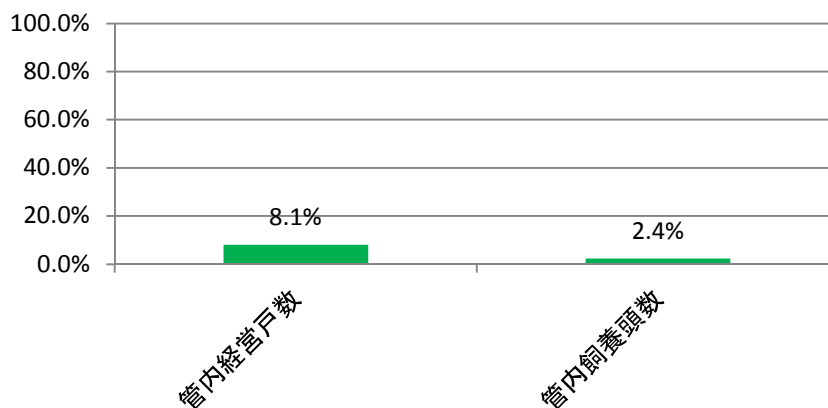
(単位:戸、頭・羽、%)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	前年比	県内占有率
管内経営戸数	5	3	3	3	3	100.0%	8.1%
管内飼養頭数	1,192	1,018	1,379	1,543	1,699	110.1%	2.4%
県内経営戸数	48	46	44	39	37	94.9%	
県内飼養頭数	76,478	76,213	76,213	65,044	72,285	111.1%	

資料:県畜産課調べ
※管内は鳥取市及び岩美町



県内占有率(H25 豚)



10 鶏

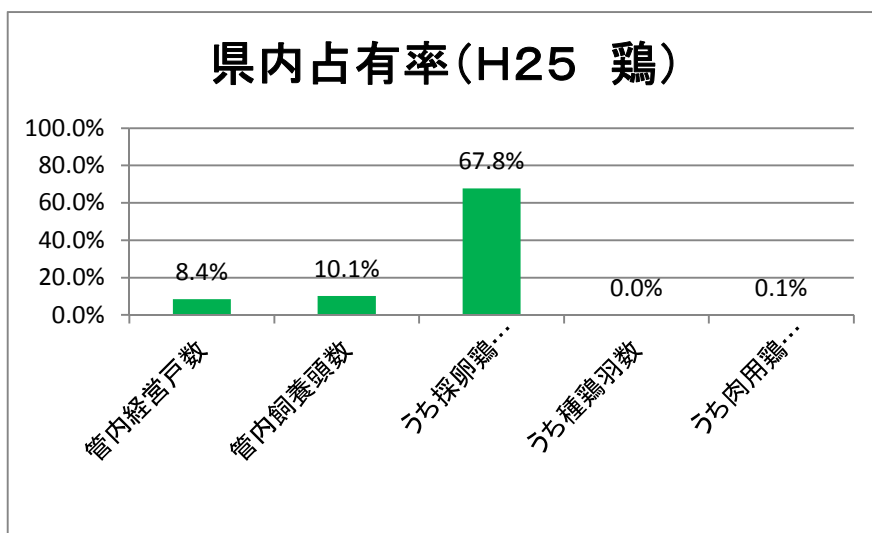
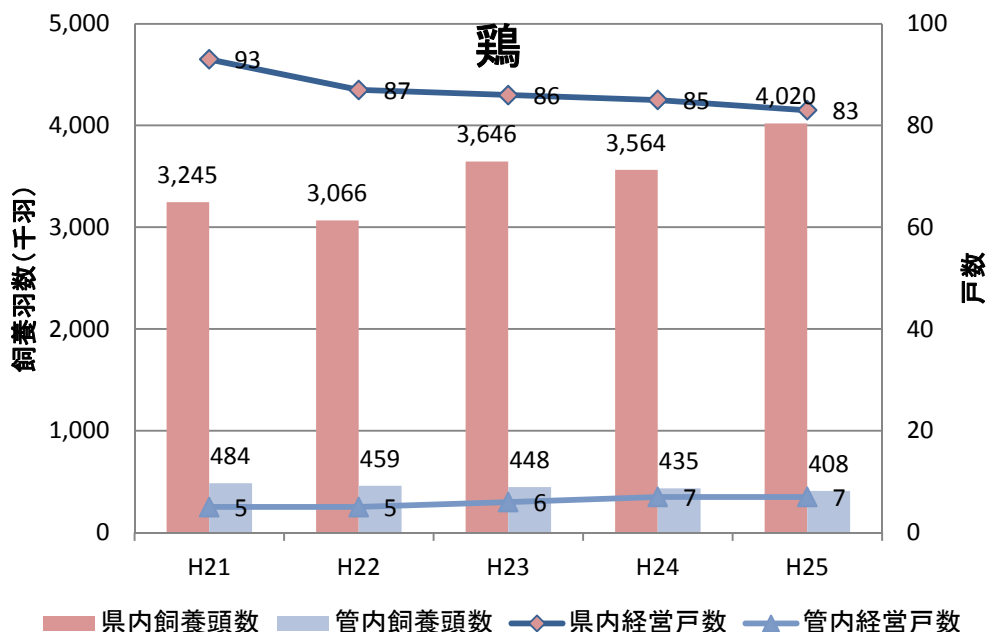
採卵経営は、全県で1戸減少で飼養羽数も減少。管内では県内飼養採卵鶏の70%弱を占め、10万羽以上の大規模経営体が目立つ。戸数は横ばいの5戸で飼養羽数は減少。

肉用鶏経営は、全県で1戸減少したが、飼養羽数は増加。管内では飼育戸数は横ばいで鳥取地どり生産農家2戸、飼養羽数は増加。今後も県内の地どりの需要は高く、生産の中核を担う農場と専用の食鳥処理場を設置したことから、さらに飼養羽数は増加見込み。

(単位:戸・頭・羽、%)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	前年比	県内占有率
管内経営戸数	5	5	6	7	7	100.0%	8.4%
管内飼養頭数	484,171	459,291	447,882	435,253	407,811	93.7%	10.1%
うち採卵鶏羽数	484,051	458,503	446,303	434,291	406,013	93.5%	67.8%
うち種鶏羽数	0	0	0	0	0	-	0.0%
うち肉用鶏羽数	872	788	1,579	962	1,798	186.9%	0.1%
県内経営戸数	93	87	86	85	83	97.6%	
県内飼養頭数	3,245,149	3,065,730	3,645,761	3,563,744	4,020,286	112.8%	
うち採卵鶏羽数	723,632	686,322	667,162	648,059	599,084	92.4%	
うち種鶏羽数	130,500	119,500	144,900	150,220	145,597	96.9%	
うち肉用鶏羽数	2,375,772	2,259,908	2,833,699	2,765,465	3,275,605	118.4%	

資料: 県畜産課調べ
※管内は鳥取市及び岩美町



V がんばる農家、がんばる地域プラン支援事業 認定プランの概要

県では、新しい取組にチャレンジし農業経営を発展しようとする農業者、地域等を支援するため、がんばる農家、がんばる地域プラン支援事業を実施している。主なプランの概要は次のとおり。

1 がんばる農家プラン支援事業 認定プラン

No.	認定年度	プラン概要	
1	H24	申請者	農事組合法人ファームなかいいち
		プラン名	地域と地域の農業を守るために
		概要	地域農地の受け皿として、水稻の高付加価値栽培（減化学肥料・減農薬）や白ネギ栽培に取り組み、営農できる体制を整備する
		支援事業の内容	【24年度】機械格納庫・作業場 【25年度】動力噴霧器、乗用田植機(5条)、白ネギ皮剥機、コンプレッサ 【26年度】自脱型コンバイン(3条)
		目標	●経営面積 23年実績：665a→26年目標 869a (うち 水稻：652a→839a)
		備考	●平成23年4月に農事組合法人を設立。
2	H24	申請者	農事組合法人らくあい農場高路
		プラン名	農地を守り、活力とうるおいのある村づくりプラン
		概要	地域農地の受け皿として、規模拡大と作業受託に取組、安定的に経営できる体制を整備する。
		支援事業の内容	【24年度】自脱型コンバイン(3条)
		目標	●経営面積 23年実績：682a→26年目標 768a (うち 水稻：617a→718a、作業受託：100a→120a)
		備考	●平成19年に農事組合法人を設立。
3	H24	申請者	農事組合法人小田みなみ 代表理事 飯野幸義
		プラン名	地域農業の担い手としての夢のある営農体制作り
		概要	地域の中核的担い手として、後継者の育成確保、直接販売ルートの拡大、減農薬栽培の取り組みをすすめ、安定的に経営できる体制を整備する
		支援事業の内容	【24年度】乗用田植機(6条植)同時施肥・除草剤散布機付 【25年度】色彩選別機、自脱型コンバイン(4条刈) 【26年度】36psトラクター、米保冷库
		目標	●経営面積 24年実績：10.8ha（畦畔も含めた利用権設定面積は12.1ha）→26年目標 14.4a（うち 食用米：73a→103a）
		備考	●平成22年3月に農事組合法人を設立。

2 がんばる地域プラン支援事業 認定プラン

No.	認定年度	プラン概要	
1	H24	申請者	鳥取市
		プラン名	未来につなぐ鹿野町農業振興プラン
		概要	<p>○担い手確保、育成、新規農業従事者の確保、農地の効率化、維持管理</p> <p>○核となる品目の生産振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生姜 規模拡大（種生姜購入経費支援）、栽培技術向上、保管穴確保（量が増えたらコンテナ整備）、品種の統一、販路開拓、新商品開発 ・そば 新品種の検討（実証圃設置）、規模拡大、収量向上対策（排水対策）、収穫及び乾燥の委託、販路開拓、新商品開発 ・獣肉 町内での取扱店の開拓、イベント等によるPR他
		支援事業の内容	<p>○推進事業：種生姜助成、そば新品種実証圃設置</p> <p>○整備事業：汎用コンバイン、そば選別機、計量機、バキュームハンド、格納庫、汎用乾燥機、溝堀機、コンテナ</p>
		目標	<p>●生姜 作付面積：3ha(H29)</p> <p>●そば 作付面積：50ha(H29)、収量：20t(H29)</p>
2	H25	申請者	鳥取いなば農業協同組合
		プラン名	いなば白ねぎ倍増プラン
		概要	<p>○白ねぎの栽培面積を倍増してらっきょうに次ぐ野菜の特産品をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規生産者の掘り起こし ・周年栽培、販売の取組：春ねぎ、夏ねぎの作付推進 ・既存生産者の増反：1戸当たり20aの経営規模を目指す ・専業農家の育成：70a以上の経営農家を育成 ・安定販売の取組：重点市場の市場占有率向上
		支援事業の内容	<p>○推進事業：苗代助成、</p> <p>○整備事業：育苗ハウス、予冷库、セル移植機、セル播種機、皮剥き・コンプレッサー、根葉切り機等整備</p>
目標	<p>●栽培面積 42ha ⇒ 80ha</p> <p>●栽培戸数 281戸 ⇒ 400戸</p> <p>●出荷量 602t ⇒ 1,420t</p>		